

ごみ収集方式に関する今後の方針について

～市民アンケート結果と戸別収集地区住民の意向調査結果を踏まえて～

本市ではこれまで、人口減少と少子高齢化が同時に進行する時代背景を踏まえ、ふくしのまちづくりの一環として、戸別収集の全市拡大を目指してきました。しかしながら、戸別収集の開始当初と比較し、労務単価は上昇し、人手不足が顕著となっており、全市拡大については、その実現への見通しが立たない状況に直面しています。

このような背景のもと、今後の持続可能なごみ収集体制を検討するにあたり、改めて市民ニーズを把握するため、ごみ収集方式に関する市民アンケートを実施しました。また、うぐいす団地町内会の皆様の協力により、戸別収集地区住民の意向調査を実施しました。これらの結果を踏まえ、今後のごみ収集については、次の3つの基本方針に基づき取り組んでいきます。

基本方針① 戸別収集は全市に拡大しません

- 市民アンケートの結果、ごみ捨ての方法として「ステーション収集」を希望する声が63.7%と過半数を大きく上回った。
- 「どちらでもよい」と回答された方を含めると、全体の80.1%の市民がステーション収集方式で差し支えないと回答。



戸別収集はこれを必要とする方に限定した市民サービスとして位置付けます。

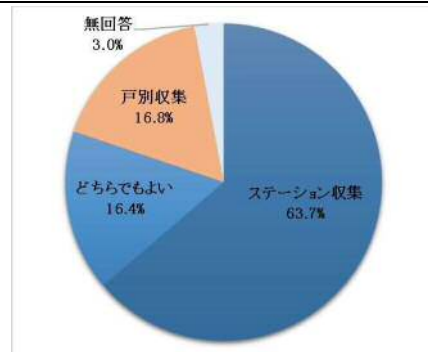


図1 市全体の希望するごみ捨ての方法

基本方針② 戸別収集地区の収集方式は

利用者の同意を得て決定します

本市では、ごみステーションの設置等については、利用者の同意を原則としています。この原則に変わりはないため、現在戸別収集を実施している14地区についても、利用者の同意を得ず強制的にステーション収集へ変更することはありません。

一方で、戸別収集の継続はコスト増や効率性の観点から課題があることも認識していることから、今後は次のように整理していきます。

- うぐいす団地町内会住民の意向調査結果に基づき、15世帯の戸別収集が、4か所のステーションに集約できた。
- この事例で得られた住民合意形成のノウハウを活かすことで、他の戸別収集地区においても、ステーションへの集約が進む可能性がある。



うぐいす団地町内会をモデルケースとし、他の戸別収集地区へのアプローチを行っていきます。

基本方針③ ごみ出し困難者への対応を継続的に検討します

- 市民アンケートの結果、16.8%が戸別収集を希望し、特に60代以上の年代層でその割合が高い。
- 加えて、うぐいす団地町内会の意向調査結果からも加齢に伴う身体的負担軽減など、ごみ出し困難に対する切実なニーズを確認できた。



ごみ出し困難者への対応として、「ふれあい収集」と「戸別収集 85」の活用を推進していきます。

※最新の人口動態（令和7年国勢調査結果など）を踏まえ、今後の在り方については継続的に検討します。

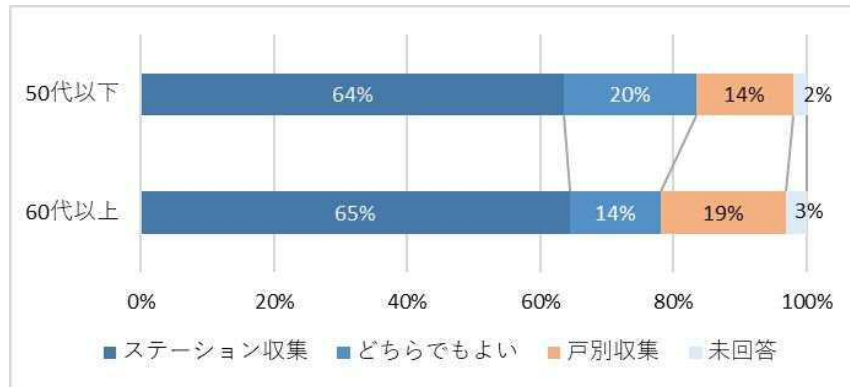


図2 年代別の希望するごみ捨ての方法

- 市民アンケートの結果、サービス対象年齢に近い層であっても約6割が「戸別収集 85」を知らないという回答が得られた。



広報活動を抜本的に強化し、ごみ出し支援を必要とする市民へ確実に情報が届くよう努めていきます。

～具体例～

- 地域包括支援センターや民生委員との連携強化
- 高齢者向け広報媒体の活用
- 個別訪問による説明

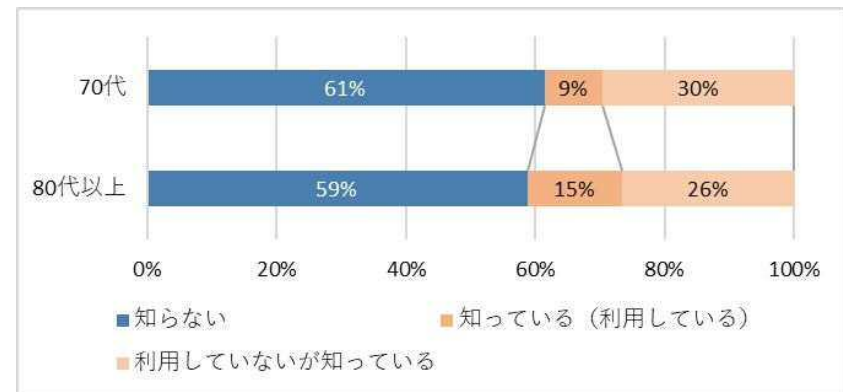


図3 70代以上の「戸別収集 85」の認知度

注：図1～3の各数値は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。